

2012年度の高石市・忠岡町小学校図工部研究

高石市・忠岡町教育研究会 図工部

1. はじめに

高石・忠岡小学校教育研究会図工部では、「子どもの表現を考える、表現力を高める指導をめざして」をテーマにして、実技講習会や研究会を実施している。そこから子どもたち一人ひとりの表現能力を深めさせるようスキルアップを図り、図工に対する興味や関心態度を高めた。

2. 研究テーマ

「子どもの表現を考える、表現力を高める指導をめざして」

3. 年間活動内容

- 5月 役員決定 年間計画の決定
- 6月 実技講習会「きり絵」
- 7月 府美研泉北地区 実技講習会「紙の立体造形」
- 9月 児童画展打ち合わせ
- 10月 児童画展の作品搬入・搬出 美術展見学
- 11月 府美研大会参加
- 1月 研究会「西洋美術史について」
- 2月 反省会 各校実践報告会

4. 教材研究等

①「きり絵」(6月 実技講習会から)

◇きり絵について

図工への苦手意識を軽減し、自信を持って制作させるには、きり絵は有効な題材である。形のないものから、少しずつ出来上がるワクワク感があり、身近にある道具でできる。また、生涯教育として高齢者も、刃物を使って切る作業が集中力を養い、心を落ち着かせることから芸術療法としてある病院もある。

◇学習目標

- ・完成までの見通しを持って、粘り強くていねいに楽しく制作させる。
- ・図案の特徴にあった、効果的な着色や表現方法を工夫させる。
- ・正しい道具の使い方ができ、さまざまな線が切れる。



②「紙の立体造形」(7月 府美研泉北地区 実技講習会から)

◇紙について

(1) 造形材料としての特徴

- ・外面抵抗が少なく、内面抵抗が大きい材料。加工しやすく、いろいろな工夫のある表現ができる。
- ・切る、折る、曲げる、破る、穴を開ける、立てる、切り起こす、接着接合するなど多様な表現が可能。
- ・種類が豊富。(大きさ、厚さ、はりの強さ、色数、等)
- ・入手しやすく、比較的安価。

(2) 紙の性質

- ・可塑性がある。但し、一度加工すると元に戻せない。
- ・弾力性がある。
- ・接合、接着がしやすい。
- ・紙には目がある。(たて目、横目)

③「西洋美術史教室」(1月 研究会から)

◇ねらい

- ・西洋絵画の名作には、神話や聖書から取った題材を描いた作品が多く、したがってその物語を理解していれば、作品の意味するところがわかり、美術鑑賞の楽しみが広がる。
- ・ルネサンスからバロック、ロココ、印象派、現代美術までをたどりながらそれぞれの代表的な画家をクローズアップして、その時代の特徴や、作品の主題を知り、作品の奥の意味を知り「精神性」を味わうことにより、絵画を読む楽しみを理解する。

5. 市児童画展

毎年、高石市役所の1Fのロビーにて開催している。地域や保護者の方に児童たちの日頃の図工活動を周知してもらおう貴重な機会となっている。10月29日から11月2日まで開催した。なお、忠岡町では町民文化会館で10月19日から21日まで開催した。



6. おわりに

図工科の授業を通して、子どもたちに創造活動の喜びを感じさせたい。また、生涯にわたって造形活動に親しみ、生活や社会に生かし美術文化に関心を持って主体的にかかわっていく態度を育成できるようこれからも研鑽を積んでいきたいと考える。